

学生自主学習支援

国際関係学科 福岡 千珠

高等言語教育研究所は、2012年度に新しい試みとして学生が自主的に行っている語学に関する研究会・勉強会の支援を始めましたが、2013年度も継続して行いました。この事業は、テキストの購入やメンバー集めのサポートをすることにより、学生が主体となって運営している語学勉強会の活動を促進することを目的としています。今年度も3つの勉強会が支援対象となり、定期的に活動を行っています。

今年度の新しい試みとしては e-portfolio の manaba が導入されたため、勉強会の報告を manaba を通じて行うようになったことがあります。manaba を通じた活動報告は、研究会・勉強会のメンバー以外にも活動内容が見えやすいというメリットがありました。また、言語学習センター iCoToBa も開設されました。iCoToBa という言語学習の場ができた今、学生の研究会・勉強会も iCoToBa のスペースを使って行うなど、より活動しやすい環境が整ったといえます。

今年度の活動については以下にそれぞれの勉強会の代表者が報告してくれましたが、それぞれに得るものは大きかったようです。今後は、この勉強会支援をさらに発展させ、それぞれの勉強会の継続(これが最も難しいことかと思うのですが)をいかに支援していくか、また勉強会の場所の提供等具体的な支援の在り方について考えてゆきたいと思います。

ポルトガル語研究会活動報告

国際関係学科 木戸 志緒子

ポルトガル語研究会は、毎週木曜日の昼休みに iCoToBa を利用して活動しました。1年から4年の学生がおり、学年や学科を超えたメンバー7名が参加しました。

前期は計6回、後期は計14回、学外3回、合計23回行いました。第8回まではポルトガル語の講義での疑問点を中心に学び、第9回からは NHK のラジオテキストを利用しました。このテキストを使って、サンパウロとリオデジャネイロの発音の違うネイティブによる会話を、各人が CD、またはラジオで予習し、活動日にネイティブの学生との会話で確認する形を取りました。

毎週の活動の他に、夏休みにはロゼッタストーンで自主学習を進めた学生がおり、また、学内の活動の他に、ブラジル料理店を訪れ、直接ネイティブとのポルトガル語の会話を体験したり、食文化の見学をしたりしました。12月には、ブラジル人学校で開催されたクリスマス会で読み聞かせのボランティアに一部の学生が参加し、ポルトガル語の絵本を利用して、感情を込めて音読することを学びました。

今年度の活動の中で講師役のネイティブから、テキストのポルトガル語と実際の会話には隔たりがあることを学びました。講師役のネイティブにはブラジルからの留学生、日系ブラジル人

の学生がいるため、会話に曖昧な表現はあまり使わないなどの文化も同時に学ぶことができました。また、iCoToBa で活動していると、ポルトガル語に興味を持つ人によく声をかけられ、ポルトガル語を話す機会を求めている人がいるということがわかりました。

限られた時間の中で成果を出すことは簡単ではありませんでしたが、ポルトガル語研究会を通して仲間が増え、一年間継続できたことは一つの成果です。

フィンランド語学習を通して

国際関係学科 梅澤 美萌里

フィンランド語学習会は2012年の5月に始まりました。当初メンバーは3人でしたが、現在は11人にまでメンバー増やし、毎週火曜日の昼休みを利用してフィンランド語の勉強を行っています。

教材は高等言語教育研究所の支援金で購入した吉田欣吾著『フィンランド語トレーニングブック』と同氏著『フィンランド語ハンドブック』を主に使用しています。前期はフィンランド語トレーニングブックを毎週1章ずつ進め、難易度の上った後期からは解説と復習に



分けて2週で1章を進める形で学習を行ってきました。さらに今まではフィンランド語の本を読めるようになることを目標に文法のみを学んできましたが、後期からは毎週いくつかの日常会話で使える言葉や挨拶なども覚え、よりフィンランド語に親しめるよう工夫をしています。

フィンランド語は各変化が非常に複雑で、名詞は複数系も含めると28もの形に変化します。そこにフィンランド語の美しさを引き立てていると言われる子音階程交替も加わると名詞はほとんど原型をとどめなくなり、時には一語を理解するのに非常に苦労しました。メンバー全員がフィンランド語は独学であるため、このような問題に直面したときは、お互いに意見を出し合いひとつずつ地道に解決していくしかありません。しかしその分問題が解けた時には自分たちの進歩や成長を感じることができ、大きな達成感が得られました。

来年度もフィンランド語研究会は毎週火曜日に集まり活動を続けていく予定です。学習内容には今までのトレーニングブックに加え、簡単なフィンランド語の本の読解も含めることも考えています。さらに新たなメンバーの勧誘にも力を入れ、フィンランド語学習会をさらに大きく活発な組織にしたいと思います。

県大手話の会 7か月、手話を勉強して

教育福祉学部 社会福祉学科 岡島 麻鈴

県大手話の会のメンバーは2014年1月現在で15人、社会福祉学科、国際関係学科の学生を中心に、毎週火曜日、3限目の時間を使って活動しています。

勉強の内容としては、前期は指文字(日本語の五十音を手話に対応させたもの)や数字の表現を覚えたあと、後期からは研究会からのサポートで買っていただいたテキスト『ゼロからわかる手話入門』を使用し、あいさつや自己紹介の表現を覚えたり、自分のことを手話で紹介したりなどしました。また、NHKで放送されている番組『みんなの手話』を見て映像内の会話表現を覚えたり、特集コーナーを見て手話や聴覚障がい者に関することを勉強したりしていきました。勉強会を始めるまで手話を知らなかったメンバーがほとんどですが、5月からの活動以来全員が自己紹介(名前、年齢、家族など...)をできるようになりました。手話の勉強をする際も、一つの単語の成り立ち(「どうしてそういう表現をするのか?」「この手話は何を表しているのか?」)ということを考えたり、単語を効果的に覚えるためにオリジナルの覚え方を編み出したりなど創意工夫をしながら楽しく勉強を進めていきました。

手話に関する資格ですが、今年度は受験していません。

来年度の活動に関しては一切未定ですが、活動の機会があれば引き続き勉強を続け、手話や聴覚障がい者に関して理解を深めていきたいと思います。

最後になりましたが、高等言語研究所の皆さん、そして勉強場所の提供をしていただいたり、手話に関する情報をたくさん教えていただいたり様々な面から手助けしていただいた、国際関係学科の亀井信孝先生に心から感謝しています。ありがとうございました。